

平成28年度 デイサービスセンター(通所介護)事業報告 (期間:平成 28 年 4 月 ~ 平成 29 年 3 月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	・出張デイ開催	・未開拓地区での開催	出張回数	年6回	13回	・新規地区2か所実施(6月佐方地区10名 10月千尋地区10名) 既存地区 野瀬地区4回、古池地区4回、双葉地区2回、池ノ内、汐見台地区1回 デイサービスの一部紹介、居宅支援事業所の紹介、おかんセミナーの案内をする。現時点では出張デイから利用に繋がっていないが、おかんセミナーに参加していただいた。
	・フェイスブックの活用を強化する	・イベント時、昼食時、スペシャルバスデー、利用時の様子を随時アップし、デイサービスの取り組みをたくさんの方に知っていただく	アップ回数	1回/週	1回/週 以上	・年間を通して1回/週 以上実施した。
	・オープンデイの開催	出張デイ開催地区を対象に案内、開催する	開催回数	年1回	0回	・29年度より総合事業への移行により、明確な方向性が定まらない為、次年度に繰り越す事とする。
収支の視点	・稼働率の維持	稼働率	稼働率	85%以上		・6月から11月の稼働率が90%以上維持できたが、2月職員のインフルエンザ感染により3日間の営業中止となり、大きな影響を及ぼした。728,000円の収益ダウンとなった。年間稼働率 一般 89.3% 認知 82.8% 全体87.5%
	・時間延長の利用再募集	利用者数	利用者人数	6名/日	2~3名/日	・再募集するも追加者0名。時間延長利用者が減った為、早出者の時間外勤務の計上を時間調整で実施したことにより、人件費の圧縮には繋がった。
利用者の視点	・利用者様の成果・活動報告を行う	・レクリエーション、リハビリ効果、個別作品、利用者様の個人成果を、写真に残し家族様や担当ケアマネに伝えていく		年2回	年1回	・利用者様には、今後の介護報酬の改革から変わり行くデイサービスのしくみについて説明を行い、自立支援に向けたホール内の配置換え、自主リハビリへの仕掛け、取り組みを行い促した。利用者様のその活動の様子をケアマネ向けモニター会を開催し、自立支援の取り組み、自主リハビリの仕掛け、リハビリのコンセプトを報告した。また利用者様には'なりたい私'を伺いそこに向けたリハビリを勧めた。その中の「旅行に行きたい」との目標に、「こすもす旅行 淡路島の旅」を開催し、一部の家族様と一緒に旅行が実施できた。
	・リハビリ効果を可視化する	・リハビリの成果と記録を表や写真に残し発表、報告を行う	報告回数	年2回	年1回	・体力測定を5月から10月に月1回実施し、測定記録をもとに身体機能の経過、リハビリ成果を確認できた。
	・スペシャルバスデーの実施	・誕生日の方の利用の様子、昔の写真をスライドショーにする	誕生日対象者	賀寿の方	14回/年	・該当利用者様の家族や担当ケアマネにお祝いの手紙を依頼をし、全員頂く。毎回フェイスブックにアップした。
	・昼食の充実、PRに繋げる	・食のイベントを開催し新聞、フェイスブックでアピールする	イベント回数	4回/年	10回/年	・こすもす食堂、選択メニュー、バイキング、お寿司パーティを実施した。
	・調理リハビリを開始する	・月2回ほど昼食やおやつ調理を計画する	実施回数	2回/月	2回/月	・1月よりホールで昼食の1品を作る。切る作業から盛り付けまで一連の作業をこなしていただき、調理リハビリとして実施した。
業務プロセスの視点	・職員による業務内容の効率化を見直す	・各委員会の業務内容の確認、把握、改善点を話し合う	見直し回数	年4回	毎月	・職員の業務負担を軽減する為委員会を廃止した。常勤会議を月2回開催し今までの委員会活動より、自立支援に向けた取り組み、仕掛けの強化に向けて話し合いを実施した。
	・利用者様の活動紹介を発表する	・レク、リハビリの関わりから成果を把握し、作品の写真を撮る	発表回数	毎月	毎月	・職員会議の時に利用者様の自立度や気づきの点の発表を行った。
学習と成長の視点		・利用者様との関わりを深め状況を把握していく				・活動成果を図る為ポイント制を導入した。特に活動が少ない利用者様にはリハビリや作業への声掛けを行い、活動推進援助を行った。 ・1月よりレク、リハビリの様子、成果等をスライド編集し毎日15時半から20分程度上映し好評を得ている
	・勉強会、内部研修の開催	・外部研修参加後の伝達研修、ベテラン職員による勉強会を開催し、知識、技術の再確認を行う	研修回数	年6回	年4回	・今後の介護報酬のありかたについて、認知症実践者研修発表、自立支援について、感染症についての研修を行った。